

広島・長崎 原爆の日のための祈り

日本聖公会奈良基督教会 2017年8月6日、8月9日

司式者 聖書のみ言葉を聞きましょう

「悪を離れて良い業をなし、心から平和を追い求めよ」詩編 34 : 14

1945年当時、広島の人口は約35万人、そのうち約14万人が犠牲となったと言われます。長崎の人口は約24万人、そのうち約7万人が犠牲となったと言われます。

証言 1 「礼拝堂の椅子の間から」

水野潔子（旧姓 平岩）さん（当時、広島女学院専門学校在学）

六十年前のことを思い出すのは、高齢になってからは難儀なはずだが、どうしてかあの時の^{せんこう}閃光は脳裏からぬぐい去れない。あの日、礼拝が終わり、後奏の途中で退場しようとしていたと思う。私はまだ礼拝堂の椅子の間にいた。

「バクウー」という変なものすごい光、礼拝堂がその光により膨れ上がった感じがした途端、天井の壁が崩れ落ちてきた。口の中が粘っこくなる光線だった。コンクリートの塊と砂がバンバン降ってくる。このままだと生き埋めになってしまうと思ったが、身動きもできない。口の中は砂とごみでジャリジャリ、砂で埋まってしまっても、手の平を丸くして口に当てて、この手の平の中だけは空気を残しておきたかった。気が付くと真っ暗闇、一時は騒然とした同級生の叫びも静かになった。私も少々あきらめの気持ちで落ち着いてきた。皆も同じであろうか。

どれくらいの時が経ったか分からないが、頭上に穴が開き外の光が見えた。しかし、鉄骨が格子になり外部に出ることはできない。またしばらくすると、壁が崩れ穴の形も違ってきた。よく見ると、その鉄の格子が崩れ脱出できそうな穴を見つけたが、そこは私の背丈の数倍もある所だ。その頃、私は小柄だが運動能力はあったので、急に勇気が出てきた。「脱出できる！」と思った。しかし、私の心の中に「皆で協力して、一人の行動ではなく」という声が聞こえた気がした。今になって思うと神の声だったのかも知れない。その穴からは、生きている人数人が心を合わせたから脱出できたと思う。

顔から血が出ている人、もう気力がなくなる寸前の人もいた。穴から外へ出てびっくり、鉄筋校舎で丈夫だと思っていた建物も横倒れになっていた。……

どの方向に歩いたかはよく分からないが、電車道に出た。その道路は小学校の友人宅へ行く道で白島行きの電車道と分かった。電柱は折れ、電線は垂れ下がっていた。ふと見ると^{てい}通信病院の門柱が見えた。その前をあまり大勢ではないが、ボロボロになった洋服に髪は逆立ち、手の皮や上半身の皮が^む剥けた人、大八車に何やら荷物を載せた人の一団がゾロゾロ歩いて来た。どうやら川に向かっているような気がしたので、私も一緒に歩いた。

常盤橋の川下の川原に着いた。そこはもうあふれんばかりの人で埋まっていた。上着はなく赤肌になった兵隊さんと思われる大人が、砂の上で痛さのためのた打ち回っていた。……

父は自宅の崩壊の際、家の下敷きになり半身不随になったが、入院治療の結果、歩行可能になり仕事に復帰することができた。姉、兄、妹は無事であったが、母が生死不明であった。その日は建物疎開の奉仕のため早朝から出掛けていたのだ。しかし、とうとう九月十七日の枕崎台風の後で洗い出され発見された。即死であったと思

う。衣服や下駄の鼻緒（私が作成したものだったので）で母であることが判明した。

……あのような戦争が二度と起こらないように平和のためにお役に立ちたく、時折、集会やデモに参加している。何をさておいても平和憲法を守っていきたいと思う昨今である。・・・七十七歳

（朝日新聞「広島・長崎の記憶——被爆者からのメッセージ」）

証言2 「被爆のころ」

西本信夫さん（長崎聖三一教会信徒。当時、長崎市立商業高校在学）

昭和二十年八月九日の朝、昨夕からの夜勤を終え帰り仕度をしている私に、加藤工長から「引き続き昼勤をするように」と、命令が出た。その命令を素直に聞くと、今夕からの夜勤まで含めて三十六時間の勤務になる。そして明日の朝になると、又「引続き昼勤を」ということになりかねない。一般工員ならいざ知らず、いかにお国のためとはいえ、学徒報国隊員には、それは少し酷というものだ。私は、きっぱりと断わった。いや、よくぞ断れたと思うのだが……。

夜勤の疲れで、ぐっすり眠っていた私は、一瞬の内に何故か目覚めて、夜具の上にキョトンと座っていた。わけが理解できぬまま家の中を見まわすと、襖、障子等の建具はことごとくなくなり、二段物の本棚が、私のすぐ左側に倒れている。慌てて外を見ると、ゴーンという物凄い音とともに、市内一面にわたってもうもうと土煙りがあがっている。原爆投下の瞬間である。

急いで母と二人、裏山の防空壕に逃げこむ。不安な時間が訳もわからぬまま、刻々と過ぎて行く。やがて、金比羅山の登山道を、浦上方面から山越えで逃げてきた人達が、二人、三人と連れだって駆け下ってくる。

「浦上方面は全滅!」「新型爆弾が落ちた!」

口々に答えては走り下って行くが、私らには、なんの事かよく理解できない。しかし、とにかく浦上方面が大変なことになったらしいことは、なんとなく想像できた。時間が経つにつれて、逃げてくる人達の負傷の度合いがひどくなってくる。

父、姉、兄は、幸い浦上とは逆方向の戸町、日見方面にいたので、夕方までに無事に帰ってきたが、弟が帰って来ない。探しに行くにも浦上方面は一面の火の海で、とても行けない。いらだちと、心配と、不安と、恐怖の、長い一夜が明ける。弟は帰ってこない。夜の明けるのを待ち兼ねて、さっそく山越えをして、探しに出かける。私達は、地獄のド真中を歩いていた。

焼けただれたガレキの原に、真黒にこげた死体が幾十幾百となくころがっている。中には、幼な子を抱きかかえた母子の、痛ましい姿もある。息絶えだえの中から「学生さん、水を飲ませてください」と、か細い声をかける人もいる。なんと、むごい光景であろうか。弟も、こんなむごたらしい姿で、何所かで死んでいるのであろうか。

弟を探すかたわら、工場を見に行くと、焼けただれた機械のそばにひとかたまりずつの骨が落ちている。私の担当の機械のそばにもあった。これは誰だろう。誰が、この機械を操作していたのだろうか。昨日の朝、加藤工長の命令に従っていたとすると、この焼けた白骨は、確実に私自身なのだ。思わず背筋を、ズーンと冷たいものが走りからだがブルブルッとふるえる。

気をとりなおして、必死に弟を探す。……

いた! 背中一面に大火傷を負った。むざんな姿の弟は、学校の玄関に、戸板の上に寝かされていた。

二人一組で壕掘りをしていたが、ジャンケンで負けた組が、掘った土を外に運び捨てる役だったらしく、外に出て、土をヨイショと

捨てたとたんに、何千度もある放射熱を裸の背中一面にまともに受けて倒れたという。なんという運命のいたずらであろう。一人は、イエスと言うべきをノーと言って助かり、一人は、ジャンケンに負け、壕の外に出たほんの一分間が、運命の一瞬であったとは。

原爆という恐ろしくも、悲しい洗礼を受けた若い魂は、苦しみの言葉、ノロイの言葉一つ残さず、二日後に、静かに天国へと旅立っていったのである。

（「被爆 70 年 長崎原爆記念礼拝 死の同心円から平和の同心円へ」
聖餐式文から）

司式者 72 年前に広島、長崎で投下された原子爆弾によって命を失った人々を覚えて祈りましょう。

すべて世にある人また世を去った人の父なる神よ、72 年前に広島、長崎に投下された原子爆弾によって命を失った人々の死を ^{いた}悼み、その魂を主のみ手にゆだねます。わたしたちがその犠牲をむなしくせず、世界の平和の実現と核兵器の廃絶を求め、また人の魂にまごころと愛が満ちることを願い求めて歩むようにしてください。主イエス・キリストによってお願いします。アーメン

点鐘 8:15 (8月6日) 11:02 (8月9日)

詩編第 42 編 (交唱)

- 1 谷川の水をあえぎ求める鹿のように || 神よ、わたしの魂はあなたを慕う
- 2 わたしの魂は神を、生ける神をあえぎ慕う || 神のみ顔を仰ぎ見られるのはいつの日か

- 3 「神はどこに」と絶えず問われて || 昼も夜もわたしの食物はただ涙のみ
- 4 思い起こせば心は高鳴る || 祭りに集う群れとともに神の家に行き
- 5 感謝と賛美の声を合わせて || 祭りの日を祝ったものだ
- 6 わたしの心はなぜ、打ち沈み || 嘆き悲しむのか
- 7 神を待ち望み、賛美をささげよう || わたしの救い、わたしの神に
栄光は || 父と子と聖霊に
初めのように、今も || 世々に限りなく アーメン

アッシジのフランシス「平和の祈り」

主よ、

わたしをあなたの平和の道具としてください。

憎しみのあるところに愛を、

争いのあるところにゆるしを、

分裂のあるところに一致を、

疑いのあるところに信仰を、

誤りのあるところに真理を、

絶望のあるところに希望を、

闇のあるところに光を、

悲しみのあるところに喜びを、

蒔くものとしてください。

聖なる主よ、

慰められるより慰めることを、

理解されるより理解することを、

愛されるより愛することを、

より多く、わたしが求めますように。

わたしたちは、与えることのなかで受け、

ゆるすことのなかでゆるされ、
死ぬことのなかで
新しく生まれて永遠のいのちに至るのですから。
主キリストによって。アーメン

(井田 泉 訳)

祈り

司式者 真理と平和の源である神よ、あなたの愛と平和をこの世界
に満たしてください

会衆 **主よ、お聞きください**

司式者 政治に関わる人びと、またわたしたちとすべての人の心に
平和を愛するまことの愛を燃やしてください

会衆 **主よ、お聞きください**

司式者 どうか今、戦争、弾圧、爆撃、テロ、災害などのために家
族や住まいを失った人びと、離散させられた人びと、また
飢えと暑さや寒さ、暴力や虐待、不安や恐れのうちにある
人びと（ことに―）を顧み、あなたの救いのみ業を現わし
てください

会衆 **主よ、お聞きください**

司式者 亡くなった人びと、ことに広島、長崎の原爆犠牲者に永遠
の平安と慰めをお与えください。またそのうちに含まれる
外国人、ことに韓国・朝鮮人被爆者を顧みてください。

会衆 **主よ、お聞きください**

司式者 東日本大震災の犠牲者・被災者、また福島第一原子力発電
所の事故によって被曝した人びと、九州の地震、また台風
の犠牲者・被災者を、今も危険と不安のうちにある人びと
を顧みてください

会衆 **主よ、お聞きください**

司式者 わたしたちが貴い犠牲者の死を空しくせず、平和を造り出す者となることができますように。そのために必要な知識と判断、勇気と愛をお与えください

会衆 主よ、お聞きください

司式者 世界の国々、ことに日本が戦争への道を歩まず、平和の道を歩むようにしてください。

会衆 主よ、お聞きください

司式者 これらのことを主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

主よ、憐れみをお与えください

キリストよ、憐れみをお与えください

主よ、憐れみをお与えください

天におられるわたしたちの父よ、

み名が聖とされますように。

み国が来ますように。

みこころが天に行われるとおおり、地にも行われますように。

わたしたちの日ごとの糧を今日^{きょう}もお与えください。

わたしたちの罪をおゆるしくください。わたしたちも人をゆるします。わたしたちを誘惑におちいらせず、悪からお救いください。

国と力と栄光は、永遠にあなたのものです アーメン

司式者 主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりがわたしたちとともにありますように。アーメン